

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 53 号:2019 年 4 月－5 月期】

- \* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済概況

#### 2019年第1四半期のウズベキスタンのGDPは前年同期比5.3%増の91兆900億スムに

経済の全部門により創出された総付加価値はGDPの88.7%を成し、前年同期比で5.2%増加した。純間接税はGDPの11.3%で、5.8%の増加を示した。サービス分野は前年同期比で5.0%成長した。鉱工業分野の付加価値額は6.8%増加し、そのうち工業の付加価値額は7.6%、鉱業では4.8%増加した。

#### 世界銀行が2019年のウズベキスタンのGDP成長率を5.3%と予測

2019年1月時点の世銀の予測では、2019年のGDP成長率は5.1%とされていた。同行は、2020年のGDP成長率を5.5%、2021年については6%とし、前回予測を維持した。

一方、アジア開発銀行（ADB）は、2019年のGDP成長率を5.2%、2020年については5.5%と予測している。同行の評価によると、多額のインフラ支出、投資環境の改善、輸出拡大および農業生産の増加により、経済成長が維持される見込みである。同行は、融資の増加、高い物価上昇率、国際収支の経常赤字の拡大をリスクとして挙げている。

#### 5月、Fitch Ratingsがウズベキスタンの外貨建ておよび自国通貨建ての長期信用格付けを「BB-」、見通しを「安定的」と発表

ウズベキスタンの格付けの理由として、確実なソブリンバランス、政府債務の少なさ、継続的な経済成長が指摘された。マイナスの影響を及ぼしているのは、依然として資源輸出への依存度が高いこと、貿易赤字、高い物価上昇率、そして国民一人当たりのGDPの水準が低いことである。Fitchは、リスクとして、預金の37.4%および融資の56.5%がドル建てで、経済のドル化が進んでいるために通貨・金融政策の有効性が限定されることを指摘している。また、政府の指示により供与される優遇融資の比率が高いことならびに国内資本市場が未発達であることもリスクとして挙げられている。

## 金融市場

### 最近設置された資本市場発展庁が、2025年までに市場に流通する有価証券を67億ドル相当にする計画を発表

現時点で市場に流通している有価証券は約2億6,500万ドル相当である。上記の目標値は、2020～2025年の有価証券市場発展戦略のコンセプトビジョンに盛り込まれている。同戦略の最終目標は、持続可能な経済成長のために資金を提供し、これを維持するため、ウズベキスタンの資本市場の効率を高めることである。そのため、市場関係者に対する公平な条件の整備、国際金融市場への統合、銀行融資の代替オプションの整備、投資障壁の解消などの措置が必要とされる。同庁は2019年12月末に同戦略の最終案を政府に提出する予定である。ADBと欧州復興開発銀行（EBRD）の支援の下、同戦略策定のために各国の専門家が誘致される。

### ウズベクネフチェガスの幹部が2020年半ばに10億ドル相当のユーロ債を発行する計画を発表

同社は発行までに財務報告書の国際基準への移行を完了しなければならない。同社の見通しによると、これは2019年末までに行われる予定である。

## 貿易

### 2019年1～4月期のウズベキスタンの貿易総額が125億7,000万ドルに

貿易総額は前年同期に比べて24億8,000万ドル（24.6%）増加した。輸出額は52億5,000万ドル（14.3%増）、輸入額は73億1,000万ドル（33.3%増）に達した。貿易収支は20億5,000万ドルの赤字であった。商品の輸出に従事する企業数は前年同期より479社多い3,327社に達した。

1～4月期のCIS諸国との貿易額は貿易総額の34.4%（43億3,000万ドル）で、前年同期に比べて34.0%増加した。他の国々との貿易額は20.2%増加し、貿易総額の65.6%を占めた。

金を除く輸出額は32.4%増えて40億2,000万ドルであった。輸出品のうち商品は81.7%で、そのうちエネルギー資源・石油製品が18.7%、繊維・繊維製品が9.8%、食品が7.3%を占めた。商品とサービスの主要輸出先は、中国（輸出総額の21.4%）、ロシア（14.2%）、カザフスタン（7.4%）、トルコ（6.6%）、アフガニスタン（3.2%）、イラン（1.4%）、タジキスタン（1.5%）であった。

主な輸入品は、機械・機器（部品を含む、44.0%）、化学製品（12.9%）、鉄・鉄製品（7.9%）であった。主な輸入相手国は中国、ロシア、韓国、カザフスタン、トルコで、この5カ国からの輸入額は輸入総額の63.1%（46億1,000万ドル）に達した。

### **ウズベキスタン政府が鉄道による製品輸出コストの最大50%を補助する制度を導入**

この支援措置は、隣接する国々への製品輸出には適用されない。国家予算による補助金の支払いを担当する機関として指定されたのは、投資・貿易省の下の輸出促進庁である。運輸省は反独占委員会とともにウズベキスタン・ハヴォ・ヨラリ（ウズベキスタン航空）とウズベキスタン・テミル・ヨラリ（ウズベキスタン鉄道）の輸出貨物の輸送料金を批判的に見直すよう指示された。

完成品の輸出額が商品（作業、サービス）売上高の50%を上回る企業に対し、輸出品の製造において使用する原料、部品、資材の輸入に際して付加価値税の支払い義務を最大120日間延期する措置も導入される。従来、付加価値税は直ちに支払わなければならないため、製造業者の税負担が増していた。

また、輸出促進庁は、外国で必要とされる許認可や証明書を取得する費用の一部の補填ならびに輸出の拡大に関する支援メカニズムを策定する予定である。

### **民営化**

#### **ウズベキスタンが大手企業29社の国有株の購入を投資家に提案**

上記の29社には、キジルクムセメント（株式の35.9%）、クヴァルツ（74.9%）、Coca-cola Uzbekistan（57%）、クングラド・ソーダ工場（51%）、デフカナバード・ソーダ工場（51%以上）、アングレン火力発電所（99%）、ノヴォアングレン火力発電所（99.5%）などが含まれる。

化学部門では、ウズキミョサノアトの子会社6社の支配株式の売却も計画されている。具体的には、フェルガナアゾト、サマルカンドキミョ、クングラド・ソーダ工場、デフカナバード・カリ肥料工場、第一ゴム技術工場などである。売却されるのは各社の株式の51~100%で、一定の投資義務が課される。

株式の評価は、一般的な国際評価基準に基づき、権威ある国際的な評価会社を実施する予定である。評価会社の選定は、最も良いプロポーザルに基づき直接契約により行われる。

### **エネルギー・セクター**

#### **ナマンガン州のミングブラク鉱床で初の石油生産**

同鉱床の開発は中国のCNPCと共同で進められてきた。エネルギー省のデータによると、同鉱床開発の主な問題点は、油層の深さが6,000m以上と深く、地層圧（115MPa以上）と地層温度（168℃以上）が高いことである。

CNPCとウズベクネフチェガスは、2011年10月にミングブラク鉱床の共同開発のための協力の基本原則に関する協定を締結した。CNPCは、生産量の計画値が年間20万tとされる同鉱床の開発に2億5,530万ドルを投資する予定である。同鉱床は1992年に発見

された。ウズベクネフチェガスのデータによると、同鉱床の石油可採埋蔵量は約200万 t である。

### **その他のセクター**

#### **Hyundaiが2023年までにウズベキスタンで電気自動車の生産を開始する予定**

電気自動車の生産は、自由経済区「コーカンド」で行われる計画である。事業費は3億ドル、生産能力は年間約1万台とされている。工場の建設は2021年に開始される予定である。

Hyundaiは、ナマンガン州で積載量1～50 tの貨物自動車、長距離・観光バスおよび特殊車両の組立も行う計画である。初期段階では年間約1,000台を生産する予定である。生産能力は3年以内に貨物自動車2,000～3,000台、バス1,000台に拡大される。部品は、最初のうちは韓国から輸入し、後に一部が現地で生産される。

ウズベキスタンにおけるHyundaiの自動車の連続生産に関する合意は、2018年11月のミルジョエフ大統領のソウル訪問時に交わされた。